明確な体動を伴うものは、先述した警報に対する驚愕に近いものの可能性があります。本当の聞こえの世界は、明確な行動上の変化を伴わないものだと思います。どんな音に、聞こうという気持ちを向けているかをまず知ることが重要です。聞かせたい音があれば、それに注意を向ける働きかけがまず要ります。聞いてどう思ったかは、その人のわずかな表出を総合的に受け取り想像しなければなりません。難しいことですが、重症心身障害児（者）の良い生活を提供するには不可欠な課題だと考えています。

横地分類（改訂大島分類）

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の３項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1−C，B2，D2−U，B5−B，C4−D

〈知的発達〉

E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可
戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可	

〈移動機能〉

<特記事項>
C：有意な眼瞼運動なし
B：盲
D：難聴
U：両上肢機能全廃
TLS：完全閉じ込め状態

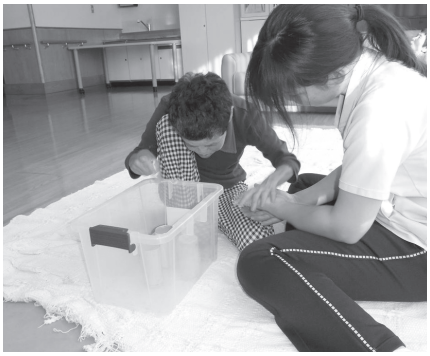
だいちの日常活動紹介

川上　恵

以前の活動では、Aさん（横地分類A6）の隣に行きひげじいさんを歌いかけながら体に触れたりウッドブロックでリズム打ちしたりしていました。Aさんは何かを破っていたり触っていたりとその時にしていることに集中しており、歌いかけや音などに気持ちが向いてないことが多くありました。

ある時、隣に行って歌いかけるのではなく、少し離れた所で「おもちゃのチャチャチャ」を歌いかけました。はじめは歌いかけを聞いている様子は感じられませんでした。次第に近くに来るようになり、職員の手をリズミカルに叩きながら歌いかけを楽しんでいる様子がありました。歌いかけを聞きたくなって近くに来たのだと感じました。職員のタイミングで聞かせようとするのではなく、Aさんの聞きたいタイミングに合わせて提供することも大切なのだと感じました。聞きたい気持ちが感じられる時に歌いかけるようにしてからは、よく聞いている様子やリズムを感じている様子が増えてきました。歌いかけのリズムに乗ったり曲調の違いを感じたり、手拍子のリズムを楽しんだりと楽しみも広がってきました。「おさるのかごや」をテンポ良く軽快に歌いかけると、職員の手を歌のテンポに合わせるように叩いていました。次第に手のたたき方が軽快になったりにこやかな表情になったりと、リズムに乗って気持ちが高まっているのが感じられました。

「バラが咲いた」を歌いかけた時は、時々職員と目を合わせながらAさんも声を出していました。徐々に声が大きくのびやかになっていき、一緒に歌っているかのようでした。歌が終わると声を出すのをやめて、職員のそばでじっと立って職員を見ており、次を期待しているように感じられました。もう一度歌いかけると、職員の声に合わせるよう大きくのびやかな声を何度も出していました。気持ちよさそうに声を出して、歌に乗っているようでした。リズムに乗ったり合わせるように声を出したりし、楽しさや満足感があると感じています。



あすかの日常活動紹介

元木　実希

Aさん（横地分類A1−C）は、活動をはじめた頃は、声を掛けながら優しくタッチされることに、何かを感じている様子でした。活動をしていく中で、身体に触れられることよりも、声を掛けた時の方が眼球をかすかに動かしたり、舌に力を入れることが多くなりました。近くでささやくように語り掛けると、ゆっくりと眼球が動き、声をかけたことに気づいているようでした。そこで、絵本の語り掛けに活動を変更しました。

『だるまさんが』という本を読むと、顔をピクピクと動かし、読みはじめたことに気付きます。そして、「だるま